

オリンピックボランティア経験、観察と批判 女子と男子マラソン競技

竹村ポール
'21/8/29/

外国からのメディアと選手及び競技関係者がたくさんいましたが、しかし、英語の案内板はほとんどありませんでした。

案内地図はどこにもありませんでした。マラソンのため色々な障害と関門があつて道順を教えるのは難しかったです。（場所ごとに、他のすべての場所への行き方を示すマップがあると便



利です。)

特定のエリアを出ると、一方通行が多く戻れないケースがよくありました。そんな時は、一旦エリア外に出て、再度入り口から入る必要がありました。しかし、位置によってエリア外に出るのも難しかったです。

日本人は外国人が失礼だと思う「NO! NO!」をよく使いましたが、英語で少しでも説明すれば大丈夫でした。例えば、“I’m sorry, you don’t have the necessary credentials to enter.” 又は “I’m sorry, you cannot enter.”

選手の国の医療スタッフは、倒れた選手の情報が少なく状態を知るのに苦労しました。

日本の女子選手は他の国の選手と同時にスタートラインに立ちませんでした。レース開始ぎりぎりに立ちました。おそらく彼らはインタビューを受けていたのでしょうか？

多くの英語略語。出会った略語のすべてを知っているわけではありませんが AD が認定カードのようでした。多くはすぐには理解できない語彙でした。

各 AD にはバーコードが付いていましたが、私たちのエリアで使用されたのではなく、外周でのみ使用されていました。

大通り公園の近所の人が AD なしに現れました。

バスの運転手は AD なしにトイレに行くため、セキュア・エリアに入ってもいいということでした。

私たちが持っていた地図は、カラープリンターでの印刷が不十分でぼやけていました。また、内容が細かすぎ多すぎました。

トイレはほとんどなく、私の配置の近くのトイレは男性専用で、アクセス制限のため利用行けないケースもありました。

多くの「チーフ」、少数の「ボランティア」。^{そうはん}相反する情報を与えるチーフ。

私が出会ったボランティアの中で、予防接種を受けた人はほとんどいませんでした。なぜ、札幌のボランティアがワクチンを接種できなかったのかわかりません。ある人が問い合わせ、ボランティアとして東京で接種を受け取ることができると言われました。

英語の olympics.com サイトには、日本語版のサイトよりもはるかに多くのアスリートに関する詳細情報が表示されていました。どうして日本語版はこんなに情報が少ないのでしょうか？

<https://olympics.com/tokyo-2020/olympic-games/ja/results/athletics/athlete-profile-n1313114-suzuki-ayuko.htm>

日本語版と

<https://olympics.com/tokyo-2020/olympic-games/en/results/athletics/athlete-profile-n1313114-suzuki-ayuko.htm>

英語版の違いをご覧ください。

全体的にマラソンの競技は、アメリカで「Duck Syndrome」という現象を思い出しました。アヒルがスムーズに動いているように見えますが、実際には激しく漕いでいるという意味です。



竹村ポール